



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	リョービ株式会社静岡工場 金型工場 増築工事	BEE	0.7	BEEランク	B-	★★

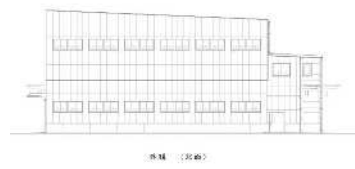
2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.9	/5	がんばろう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.8	/5	がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	1.8	/5	がんばろう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.2	/5	がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点				2.9	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①外壁材にALC、サンドイッチパネルを採用し断熱性を高めた。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内緑地、敷地隣接地の緑化再配置により可能な限りの外構緑地を目指した。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦外壁材にALC、サンドイッチパネルを採用し断熱性を高めた。 ⑧積極的に高窓を配置し通風性の向上に努めた。 ⑨LED照明の採用。高効率空調機の導入。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑫既存建築部の継続使用が可能なプランニング ⑬使用部材はF☆☆☆☆以上とした。 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	屋光利用設備	
			3.2	3.2.1	③	昼光制御	
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
		Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出	
			3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上	
		LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
			2		⑧	自然エネルギー利用	
			3		⑨	設備システムの高効率化	
			4	4.1	⑩	モニタリング	
				4.2	⑩	運用管理体制	
		LR-2	1	1.1	⑪	節水	
				1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無
					1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無
			2	2.1	⑫	材料使用量の削減	
				2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
				2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
				2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
			3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
				3.2	3.2.1	⑬	消火剤
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
		LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮	
			2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点				2.8	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯許容荷重にゆとりを持たせる設計。 	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
				2.1.2	⑯	免震・制振性能	
			2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点				1.8	
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー法誘導基準相当の計画とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑街並みに配慮し、調和の取れた外装とした。 	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
		Q-3	3	3.1	㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点				2.2	
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/㉓敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ㉓敷地内緑地、敷地隣接地の緑化再配置により可能な限りの外構緑地を目指した。 ■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/㉔温熱環境悪化の改善) 	Q-3	1		⑳	生物環境の保全と創出		
		2		⑳	まちなみ景観への配慮		
		3	3.2	㉓	敷地内温熱環境の向上		
		LR-2	2	2.5	㉔	持続可能な森林から産出された木材	
		LR-3	2	2.2	㉔	温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 |使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	リョービ株式会社静岡工場 金型工	階数	地上2F
建設地	静岡県静岡市清水区蒲原5215-1	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	40 人
地域区分	7地域	年間使用時間	4,500 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2022.6.14
敷地面積	50,351 m ²	作成者	井上 洋三
建築面積	3,309 m ²	確認日	
延床面積	3,431 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.7 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 2.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
無駄をなくし、環境に配慮した設計 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。		
Q1 室内環境 有害物質を含まない材料の選択 (F☆☆☆☆)	Q2 サービス性能 将来の設備変更の可能性に対応した設計とした	Q3 室外環境 (敷地内) 調和の取れる外観デザインにした
LR1 エネルギー 増築部はLED照明とした	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料、解体時にリサイクルできる材料を選択した	LR3 敷地外環境 産業廃棄物は回収処理をする

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される